

授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!! 西部の社会科の未来へバトンをつなぐ



令和4年3月発行
西部教育事務所

社会科授業づくり講座
四万十市立中村西中学校



西部管内の
講座関係HP

【単元】地理的分野 B(2)世界の諸地域 アフリカ州 【授業者】萩原 直幸 教諭

教材研究会 令和3年10月1日(金)



単元を貫く問い (教材研究会時)

アフリカが今後発展するには、SDGsのどの項目を優先的に解決する必要があるか

見方・考え方を働かせている姿

・アフリカの人々の生活の変化や日本の共通点と差異に着目しながら課題を見出し、単元を貫く問いを設定し、課題追究している様子。
・本単元の学習を見通しながら、SDGsの視点と関連付けて考察している。

・位置や分布、地域内及び他地域との相互依存関係に着目し、比較したり、関連付けたりして、自分なりに考察し表現している。

他者の意見を聞きながら、自分の行動の在り方を考察していく。

ポイント①

【単元で働かせる見方・考え方】

生徒が地理的事象に見方・考え方を働かせている姿を具体的にイメージすることで、どの場面、どのような見方・考え方を働かせて考察させるのが明確になり、生徒が見方・考え方を意識化しやすくなります。

見方・考え方を繰り返し働かせながら考察していくことで、より深い理解につながり、概念化された知識や、汎用的な知識へとつながっていきます。

協議の視点

- ①単元を貫く問いの設定は適切であるか。
- ②単元を貫く問いと関連させて、資質・能力を育成するための工夫はどのようにすればよいか。

協議①

- ◇アフリカの人々がよりよい生活をしていくために、SDGsの視点で考えていくような問いにしてはどうか。
- ◇SDGsを関連させて考えさせることで、多様な意見が出て議論が活発になるのでよいと思うが、多様な意見が出る分、ぼやけてしまうことも考えられる。
- ◇人権的な視点を入れてみてはどうか。

協議②

- ◇アジア州やヨーロッパ州等、既習の学びや見方・考え方を生かす。根拠を基に対話や議論を行う。
- ◇地理的条件や他地域との関係性などを根拠として、表現させる。
- ◇「資源があるのになぜ貧しい国が多いのか」といった課題を、個人思考→共有→再度個人思考の流れで深めていく。

単元計画

課題把握

(1時間)

〈アフリカにどのような国があり、経済の状態を理解する。〉
学習課題:アフリカの現状を把握する。
・いくつかのアフリカの国々の名称と位置を確認する。
・SDGsの項目を活用して、単元を貫いてアフリカの発展を考える見直しを持つ。
・資料からアフリカの国々の経済レベルを確かめる。
(各年代のGDPを比較して、成長している国や貧困が続いている国があることを確認する。日本で、同じ年代がいつになるのかも確認をする)

課題追究

(4時間)

〈アフリカにおける様々な課題を理解する。〉
学習課題:アフリカの歴史や自然環境からみえる課題はなんだろうか
・熱帯地域や乾燥帯地域が広がっていることを理解する。
・砂漠化の問題に注目する。
・アフリカ州の歴史を把握し、過去と現在の他地域との結び付きを理解する。
・アフリカ州で多く起こる紛争の原因を理解する。
学習課題:アフリカの農業や資源からみえる課題はなんだろうか
・農業の特色や豊富な鉱山資源がアフリカ州の経済に与えている影響を理解する。
・カカオ農家を例にして、アフリカの農業の実情を知る。
・フェアトレードから、先進国の役割が世界中で問われていることを知る。
・資源には恵まれているものの、モノカルチャー経済からくる貧困に注目する。
学習課題:SDGsの優先項目を決めて、根拠をまとめる。
・アフリカの課題をまとめる。(jamボードの活用)
・アジアとヨーロッパで学習した内容から、発展に必要な項目を考える。
・SDGsの課題から何に着目するのか、優先順位を考える。
・発表のワークシートを使って、発表の準備をする。

課題解決

(1時間 本時)

〈アフリカの国々が今後発展するかどうかについて、これまで学習してきたことを基に議論する。〉
学習課題:アフリカが今後発展するには、SDGsのどの項目を優先的に解決する必要があるか
・共通点を見つける。
・課題と課題がつながっていることに気づく。
・他の人の発表内容を自分の発表内容と対比させて聞く。
・疑問に感じたことや、良かったと思った点、こうすればもっといい点などを個人の振り返りにつなげる。
・振り返りを全体で共有する。
・アフリカの国々が他国の援助や協力が必要であり、日本に住んでいてもアフリカの発展が関係してくることを学ぶ。

参加者の声

社会科の中で単元構想の仕方、目標→付けたい力→見方・考え方を働かせている姿、課題設定、学習過程と、組み立てていく仕組みが分かりました。教科書をベースに授業を展開することしかできていなかったため、教科会等で学びを広げていきたいです。

ポイント②

【社会科の学習過程に沿った学習活動の設定】

「課題把握」「課題追究」「課題解決」の学習過程を意識して単元を構想し、各学習過程に沿った学習活動を設定することによって、生徒は見通しを持ちながら、主体的に学習を進めることができます。そのような学習活動が、社会科で付けたい資質・能力の育成につながっていきます。

授業研究会 令和3年10月27日(水)

単元を貫く問い(変更後) アフリカの経済発展に向けて、どのような取り組みをすればよいか

本時の目標 アフリカの経済発展に向けて、仮説を検証することができる。



部分拡大

- 自分の仮説との比較
- アジア・ヨーロッパの学習
- 自分の調べた根拠との比較

ポイント③

【座標軸を使った共通仮説の整理】
 前時において、グループで考えた共通仮説を発表の際に、座標軸を使って整理をしています。縦軸を「実現が容易か、困難か」、横軸を「急務の取組か、長期的な取組か」として、自他の共通仮説を比較しながら、考察を深めたり、座標軸のどこに位置づけるかを検討したりすることがしやすいように配慮しています。
 このように座標軸のような思考ツールを使うことで、考察の比較や整理がしやすくなりますので、考察させる内容によって思考ツールを活用することが効果的な場合があります。

ポイント④

【比較や考察のポイントを明示】
 生徒が比較や考察をする際に、どこに着目していくのかを黒板に明示しています。例えば「アジア・ヨーロッパの学習」と示すことによって、既習の内容と関連付けたり、考察の方法を適用したりすることで、自分の考察を深めていくことができます。ポイントを明示することによって、生徒が比較や考察のポイントを意識化できるので、社会的事象の意味的理解につながりやすくなります。

講師の井上昌善先生(愛媛大学准教授)の講話より

【社会科授業の目標に関する理論】
 社会科の目標原理には、「社会を知る、わかる、つくる(考える)」という3つのレベルがある。

〈第1段階〉
 社会を知る、気付く段階 → 問い:「どのような」

〈第2段階〉
 社会が分かる、推論する段階 → 問い:「なぜ」

〈第3段階〉
 社会への関わり方を選択・判断する段階、社会をつくる段階【社会をつくる段階①】
 → 問い:「今後、どうすればよいのだろう」

〈第4段階〉
 行動化 解決策を社会に向けて提案・実行したりする段階【社会をつくる段階②】
 → 問い:「今後、私たちにできることは何だろうか」

【「構想」型の学習原理】
 指導者が下の2つのパターンの特質を理解して、学習活動を展開することで、生徒の考察がより深まる。

○価値判断・意思決定
 →「～がよいか。どれがより望ましいか。」
 (設定された選択肢から選ぶ。)

○社会形成
 →「～するべきか。どう改善するか。」
 (選択肢それ自体を考え立案、提言する。)

【今回の授業モデルについて】

- ・単元を貫く問いが、「価値判断・意志決定」型になっているが、アフリカの経済発展を困難にしている要因を考察させるような問いの方が、より生徒は考えやすかったのかもしれない。
- ・先行実践は、単元づくり、授業づくりの手がかりとなる。
 〈事例〉MQ:あなたは AU(アフリカ連合)の次のリーダーです。アフリカ州が今よりもっとよい地域になるために、どの課題から解決していくか、その根拠をあげて AU 加盟国へ説明しなさい。(アフリカの課題: 貧困、子どもの教育、飢餓、紛争、砂漠化、都市のスラム化)

参加者の声

○単元を貫く問いの設定と、各時間のめあて、問いの設定の重要性、単元構想図の作成がやはり必要であると感じております。いかに作成できる時間をつくるかも課題でありますので、今回の授業づくり講座で学んだことを生かしたいです。

○単元を貫く問題を中心とした課題追究をしていくこと、根拠を明確にして、議論できるようにしていきたい。生徒の議論を中心にして、教師はあまり口を出さず、生徒中心の授業をしていきたい。